

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年2月10日
【四半期会計期間】	第22期第2四半期（自 2020年10月1日 至 2020年12月31日）
【会社名】	株式会社ボルテージ
【英訳名】	Voltage Incorporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 津谷 祐司
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03(5475)8193
【事務連絡者氏名】	経理本部長 大島 小百合
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03(5475)8193
【事務連絡者氏名】	経理本部長 大島 小百合
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期 第2四半期 連結累計期間	第22期 第2四半期 連結累計期間	第21期
会計期間	自2019年7月1日 至2019年12月31日	自2020年7月1日 至2020年12月31日	自2019年7月1日 至2020年6月30日
売上高 (千円)	3,247,579	3,526,677	6,587,274
経常損益(は損失) (千円)	116,549	151,870	87,597
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益(は損失) (千円)	160,088	136,361	160,746
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	156,084	129,056	160,969
純資産額 (千円)	2,002,497	2,596,089	2,285,012
総資産額 (千円)	2,602,816	3,435,994	3,004,251
1株当たり四半期(当期)純損益金額(は損失) (円)	30.83	21.34	28.62
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	21.33	-
自己資本比率 (%)	76.6	75.4	75.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	40,165	373,570	223,641
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	41,808	219,585	32,148
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	153,630	331,683	441,029
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,423,372	2,002,609	1,530,928

回次	第21期 第2四半期 連結会計期間	第22期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年10月1日 至2019年12月31日	自2020年10月1日 至2020年12月31日
1株当たり四半期純損益金額(は損失) (円)	7.90	14.24

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、第21期及び第21期第2四半期連結累計期間は、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態の分析

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、3,435,994千円（前連結会計年度末比431,742千円増）となりました。

流動資産は、2,884,421千円（同231,879千円増）となりました。その主な要因は、新株予約権の行使等による現預金の増加478,506千円及び売掛金の減少245,227千円によるものであります。

固定資産は、551,572千円（同199,863千円増）となりました。その主な要因は、投資不動産取得等による投資その他の資産の増加155,689千円及びソフトウェア取得等による無形固定資産の増加24,975千円によるものであります。

(負債の部)

負債合計は、839,905千円（同120,666千円増）となりました。

流動負債は、724,234千円（同4,995千円増）となりました。その主な要因は、未払費用の減少35,250千円、短期借入金の増加33,996千円及び未払法人税等の増加13,511千円によるものであります。

固定負債は、115,671千円（同115,671千円増）となりました。その主な要因は、長期借入金の増加115,671千円によるものであります。

(純資産の部)

純資産は、2,596,089千円（同311,076千円増）となりました。その主な要因は、新株予約権行使によって資本金及び資本準備金がそれぞれ91,485千円増加したこと並びに親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によって利益剰余金が136,361千円増加したことによるものであります。

(2) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にありますが、持ち直しの動きがみられています。企業収益は感染症の影響により、大幅な減少が続いておりますが、個人消費は、一部に足踏みもみられますが総じてみれば持ち直しており、実質総雇用者所得はこのところ持ち直しの動きがみられます。

また、モバイルコンテンツ業界においては、アプリストアの消費支出が2020年は1,430億ドルに到達、前年同期から20%増加し、過去最高を記録しました（注1）。

当社グループにおきましては、「日本語女性向け」「英語・アジア女性向け」「男性向け」「リアイベ」「電書・動画・コンシューマ」の5区分で事業を運営しております。

当第2四半期連結累計期間における売上は、「英語・アジア女性向け」が減少したものの、「日本語女性向け」「男性向け」等が増加し、3,526,677千円（前年同期比8.6%増）となりました。費用は、オフィス減床やリース料削減による賃借料の減少や採用抑制に伴う人員減による労務費の減少により、全体として減少しました。その結果、営業利益は170,201千円（前年同期は営業損失124,651千円）、経常利益は151,870千円（同 経常損失116,549千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は136,361千円（同 親会社株主に帰属する四半期純損失160,088千円）とそれぞれ黒字転換となりました。

事業区分別の業績は、以下の通りであります。

事業区分別の主要なタイトル名、及びその略称は次のとおりです。なお、前第4四半期連結会計期間より、事業区分を変更しておりますので、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後の事業区分に組み替えて比較しております。

事業区分	分類	主要タイトル	略称
日本語女性向け	読み物型(注2)	100シーンの恋+ ダウト~嘘つきオトコは誰?~	100恋+ ダウト
	アバター型(注3)	天下統一恋の乱 Love Ballad 誓いのキスは突然に Love Ring 眠らぬ街のシンデレラ 鏡の中のプリンセス Love Palace 新 王子様のプロポーズ Eternal Kiss 魔界王子と魅惑のナイトメア	恋乱 誓い シンデ ミラプリ 王子 魔界
	カード型(注4)	あやかし恋廻り	あや恋
	声優型(注5)	アニドルカラース	アニドル
英語・アジア女性向け	読み物型	Love365: Find Your Story(注6) Lovestruck: Choose Your Romance(注7) Doubt~説話的的男人是誰?(繁体字版「ダウト」)	Love365 Lovestruck
	カード型	Ayakashi: Romance Reborn	Ayakashi
男性向け	カード型	六本木サディスティックナイト	六本木
リアイベ (リアルイベント)	イベント・ライツ 展開	ボルSHOP公式オンライン	
電書・動画・ コンシューマ	電子書籍	KISSMILLe~100シーンの恋チャット小説~(注8) ぼるコミ otonaシンデレラ	キスマル 0Cレーベル
	コンシューマ展開	Nintendo Switch向け「誓いのキスは突然に」	

1、日本語女性向け

日本語女性向けは、「読み物型」「アバター型」「カード型」「声優型」に分類して展開しております。
「アバター型」「カード型」が増加し、売上高は2,153,702千円(前年同期比9.6%増)となりました。

2、英語・アジア女性向け

英語・アジア女性向けは、「Love365」「Lovestruck」等が該当します。
主に「Lovestruck」が減少したことにより、売上高は626,090千円(前年同期比11.8%減)となりました。

3、男性向け

主に「六本木」が増加したことにより、売上高は638,856千円(前年同期比26.6%増)となりました。

4、リアイベ

イベント・ライツ展開が増加したことにより、売上高は75,533千円(前年同期比42.1%増)となりました。

5、電書・動画・コンシューマ

電書・動画・コンシューマは電子書籍(キスマル、ぼるコミ、0Cレーベル)及びコンシューマ展開(Nintendo Switch向けコンテンツ)が該当します。

主にコンシューマ展開が増加したことにより、売上高は32,493千円(前期比121.1%増)となりました。

- (注) 1. 出所: App Annie Inc.「モバイル市場年鑑2021」2021年1月13日発表。
2. 読み物型: ストーリーを楽しむことがメインとなるタイプのアプリ。
3. アバター型: ストーリーをメインに、アバターなどのゲーム性を組み合わせたタイプのアプリ。
4. カード型: カードの収集・育成要素を持つタイプのアプリ。
5. 声優型: アプリ運用と並行し、声優陣を起用したりリアルイベントやwebメディア露出等を積極的に展開するタイプのアプリ。
6. Love365: Find Your Story: 日本語版恋愛ドラマアプリを翻訳した海外市場向けコンテンツであり、1つのアプリ内で複数のタイトルが楽しめる「読み物アプリ」。
7. Lovestruck: Choose Your Romance: SFスタジオ(米国サンフランシスコにある連結子会社)にて海外市場向けに制作した「読み物アプリ」。
8. KISSMILLe~100シーンの恋チャット小説~: ボルテージの電子書籍事業の第1弾となる、投稿プラットフォーム型の「恋愛チャット小説アプリ」

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末と比較して471,681千円増加し、2,002,609千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、373,570千円の資金を得る結果(前年同四半期は40,165千円の支出)となりました。その主な要因は、税金等調整前四半期純利益が151,870千円となったこと並びに売上債権が242,448千円の減少となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、219,585千円の資金を支出する結果(前年同四半期は41,808千円の支出)となりました。その主な要因は、投資その他の資産の取得による支出が166,280千円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、331,683千円の資金を得る結果(前年同四半期は153,630千円の収入)となりました。その主な要因は、株式の発行による収入が182,020千円、長期借入れによる収入及び短期借入れによる収入が150,000千円あったことによるものであります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前連結事業年度の有価証券報告書に記載しました「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第2四半期連結累計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,120,000
計	15,120,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,513,675	6,513,675	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株となっております。
計	6,513,675	6,513,675	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2021年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年10月1日～ 2020年12月31日	-	6,513,675	-	1,250,714	-	1,216,314

(5) 【大株主の状況】

2020年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
津谷 祐司	東京都渋谷区	667,800	10.40
株式会社サードストリート	東京都港区南青山2丁目2-15	400,000	6.23
津谷 奈々子	東京都渋谷区	368,200	5.73
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	201,800	3.14
特定有価証券信託受託者株式会 社S M B C信託銀行	東京都港区西新橋1丁目3番1号	200,000	3.11
GMOクリック証券株式会社	東京都渋谷区道玄坂1丁目2番3号	90,100	1.40
THE BANK OF NEW Y ORK MELLON 1400 40 (常任代理人株式会社みずほ銀 行)	240 GREENWICH STREE T, NEW YORK, NY 10286 , U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1 品川イ ンターシティA棟)	84,700	1.32
株式会社日本カストディ銀行(信 託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-12	83,400	1.30
株式会社S B I証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	70,545	1.10
株式会社日本カストディ銀行(信 託口6)	東京都中央区晴海1丁目8-12	69,900	1.09
計	-	2,236,445	34.82

- (注) 1. 上記のほか、当社所有の自己株式91,581株(1.41%)があります。
2. 第1位の津谷祐司氏及び第3位の津谷奈々子氏は、第2位の株式会社サードストリート及び第5位の特定有価証券信託受託者株式会社S M B C信託銀行の所有株式を実質的に所有しております。
3. 第5位の特定有価証券信託受託者株式会社S M B C信託銀行の所有株式は、第2位の株式会社サードストリートが所有していた当社株式を株式会社S M B C信託銀行に信託したもので、議決権は株式会社サードストリートに留保されております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 91,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,418,900	64,189	権利内容に限定のない 標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,275	-	-
発行済株式総数	6,513,675	-	-
総株主の議決権	-	64,189	-

【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ボルテージ	東京都渋谷区恵比寿 四丁目20番3号	91,500	-	91,500	1.41
計	-	91,500	-	91,500	1.41

(注) 当第2四半期会計期間末現在の所有自己株式数は、91,581株となっております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年7月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,530,928	2,002,609
売掛金	1,013,122	767,895
前払費用	67,598	57,288
その他	41,026	56,762
貸倒引当金	134	134
流動資産合計	2,652,542	2,884,421
固定資産		
有形固定資産	2,878	22,076
無形固定資産		
ソフトウェア	1,025	21,956
コンテンツ	-	4,044
無形固定資産合計	1,025	26,000
投資その他の資産	347,805	503,495
固定資産合計	351,709	551,572
資産合計	3,004,251	3,435,994
負債の部		
流動負債		
買掛金	90,716	86,117
未払金	2,640	3,485
未払費用	520,451	485,200
未払法人税等	15,847	29,359
預り金	36,578	37,247
短期借入金	-	33,996
賞与引当金	6,805	-
その他	46,198	48,827
流動負債合計	719,239	724,234
固定負債		
長期借入金	-	115,671
固定負債合計	-	115,671
負債合計	719,239	839,905
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,159,229	1,250,714
資本剰余金	1,124,829	1,216,314
利益剰余金	81,519	217,881
自己株式	100,222	100,222
株主資本合計	2,265,356	2,584,688
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	66	1,437
為替換算調整勘定	12,024	3,214
その他の包括利益累計額合計	11,957	4,652
新株予約権	7,698	6,748
純資産合計	2,285,012	2,596,089
負債純資産合計	3,004,251	3,435,994

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
売上高	3,247,579	3,526,677
売上原価	1,215,065	1,127,796
売上総利益	2,032,514	2,398,881
販売費及び一般管理費	2,157,165	2,228,679
営業利益又は営業損失()	124,651	170,201
営業外収益		
受取利息	3,306	2,259
受取配当金	23	18
為替差益	4,425	-
投資有価証券売却益	357	545
不動産賃貸料	-	696
固定資産売却益	510	138
雑収入	796	403
営業外収益合計	9,419	4,061
営業外費用		
支払利息	-	134
為替差損	-	15,125
投資有価証券評価損	1,053	-
不動産賃貸費用	-	6,653
固定資産除却損	37	-
雑損失	227	479
営業外費用合計	1,317	22,392
経常利益又は経常損失()	116,549	151,870
特別損失		
減損損失	41,905	-
特別損失合計	41,905	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	158,454	151,870
法人税、住民税及び事業税	1,633	15,508
法人税等調整額	-	-
法人税等合計	1,633	15,508
四半期純利益又は四半期純損失()	160,088	136,361
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	160,088	136,361

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	160,088	136,361
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	372	1,504
為替換算調整勘定	3,631	8,809
その他の包括利益合計	4,003	7,305
四半期包括利益	156,084	129,056
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	156,084	129,056

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	158,454	151,870
減価償却費及びその他の償却費	2,531	5,181
ソフトウェア償却費	7,266	617
減損損失	41,905	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	12	-
賞与引当金の増減額(は減少)	6,022	6,655
固定資産売却損益(は益)	510	138
固定資産除却損	37	-
受取利息及び受取配当金	3,329	2,278
為替差損益(は益)	4,560	11,195
投資有価証券評価損益(は益)	1,053	-
投資有価証券売却損益(は益)	357	545
支払利息	-	134
売上債権の増減額(は増加)	247,598	242,448
仕入債務の増減額(は減少)	19,615	4,517
未払消費税等の増減額(は減少)	60,644	8,184
未払費用の増減額(は減少)	83,123	33,179
その他	4,052	1,816
小計	40,290	374,133
利息及び配当金の受取額	3,329	2,278
利息の支払額	-	134
法人税等の支払額	3,627	3,412
法人税等の還付額	421	705
営業活動によるキャッシュ・フロー	40,165	373,570
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,135	23,951
有形固定資産の売却による収入	510	139
無形固定資産の取得による支出	12,614	24,970
敷金の差入による支出	4,758	-
資産除去債務の履行による支出	16,500	-
差入保証金の差入による支出	6,910	-
投資有価証券の取得による支出	40	6,000
投資有価証券の売却による収入	1,640	1,441
投資その他の資産の取得による支出	-	166,280
その他の収入	-	35
投資活動によるキャッシュ・フロー	41,808	219,585
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	30,000
長期借入れによる収入	-	120,000
長期借入金の返済による支出	-	333
株式の発行による収入	153,648	182,020
配当金の支払額	18	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	153,630	331,683
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,770	13,987
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	77,426	471,681
現金及び現金同等物の期首残高	1,345,946	1,530,928
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,423,372	2,002,609

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
広告宣伝費	775,470千円	811,478千円
販売手数料	990,002千円	1,054,439千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の第2四半期連結会計期間末残高と現金及び預金勘定は一致しております。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

株主資本の著しい変動

当社は、2019年12月23日付発行の第8回新株予約権(第三者割当による新株予約権)の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ72,225千円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,014,779千円、資本準備金が980,379千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

株主資本の著しい変動

当社は、2019年12月23日付発行の第8回新株予約権(第三者割当による新株予約権)の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ91,485千円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,250,714千円、資本準備金が1,216,314千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	30円83銭	21円34銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	160,088	136,361
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	160,088	136,361
普通株式の期中平均株式数(株)	5,192,094	6,388,761
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	21円33銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益の調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	3,172
(うち新株予約権)	-	(3,172)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	2019年12月5日開催の取締役会決議による第6回新株予約権 新株予約権の数 2,500個 (普通株式 250,000株)	-

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月10日

株式会社ボルテージ

取締役会御中

PwCあらた有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 直幸 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 穴戸 賢市 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ボルテージの2020年7月1日から2021年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年7月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ボルテージ及び連結子会社の2020年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。